

太田いそ賞を受賞して

いけだ地域栄養士会 葉菜の会

この度は、「太田いそ賞」という偉大な賞をいただき、たいへんうれしく思います。私たち葉菜の会会員一同、大きな喜びとともに、気の引きしめる思いです。

私たち葉菜の会は、昨年国立循環器病センター主催の「ご当地かるしおレシピコンテスト」に応募し、全国から寄せられた355のレシピの中から、金賞・銀賞に続く「だし・うま味賞（定食部門）」を受賞することができました。「栄養士活動に関し創意工夫をした」と認めていただき、今回の受賞になりました。

私たちは、毎年池田市主催の健康フォーラムのイベントで、生活習慣病予防の一環としてヘルシー昼食を試食しながら食生活改善を促す教室を実施しています。昨年は、減塩をテーマとし、1食塩分2g以下のお弁当を作ることができました。このお弁当にご当地食材を盛り込み、より風味を増し彩りのよい「ふくまる5C

弁当」を完成させ、コンテストに応募いたしました。（ちなみに、5Cとは、体に「やさしー」「うれしー」「たのしー」「おいしー」そして「ヘルシー」です）コンテストの最終審査は、実際に作った料理を試食しての審査とプレゼンです。限られたスペースで時間内の調理を要求された会員、プレゼンで目立つようにと池田市のゆるキャラの着ぐるみを着た会員、それぞれの役割を果たし葉菜の会会員一丸となったことによって「だし・うま味賞」をいただきました。

葉菜の会が発足して、地域に根差した活動を行って22年目になります。この受賞したお弁当もそんな活動の中から生まれたものです。今回の受賞を機に、葉菜の会会員一同、さらなる自己研鑽にはげみ、地域住民の健康増進に寄与できるよう活動を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

太田いそ研究奨励賞

「食育全体計画」に基づく白鷺小学校での実践

堺市立白鷺小学校（現 堺市立八上小学校）川野 朋子

このたびは、「太田いそ研究奨励賞」をいただき、大変光栄に思っております。このような賞を受賞できましたことは、たくさんの方々の大きなお力添えのおかげだと深く感謝申し上げます。

「栄養教諭」は、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして、生活習慣病の予防やアレルギーへの対応を行うなど、その専門性を活かしたきめ細かな指導・助言を行うことが期待されています。

また、学習指導要領では、「食育の推進にあたっては、児童の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うこと」とされています。各校で「食育全体計画」を作成し、取り組んでいます。

今回の発表は、堺市立白鷺小学校で教職員とともに実践した食育です。発表の際使用した写真は、校長先生撮影協力です（今年度栄養教諭配置がないことが残念です）。

学校給食の時間は、先生方が各クラスで準備から片付けまでの実践活動を通して計画的・継続的な指導を行い、児童に望ましい食習慣と食

に関する実践力を身につけさせる時間です。栄養教諭は、給食献立が教材として生かせるよう工夫し、指導資料を提供しています。また、食に興味関心が持てるようランチルームの活用や教室訪問をしたり、食育に関連する教科の授業を担任とともにすすめています。

成長期の子どもたちにとって、健全な食生活は、健康な心身をはぐくむために欠かせないものです。また、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼします。食育のとりくみは、家庭との連携が欠かせません。校内での「健康フェア」「PTA調理実習」など様々な形でとりくんできました。

学校現場の栄養士は、日々研修し、指導力の向上が望まれます。いろいろな職場・地域でご活躍の栄養士の方々が集う栄養士会での出会いは、さまざまな知識や情報をいただく大切な機会です。子どもたちのために これからも一層努力を重ねていきたいと思っております。なにとぞ、ご指導賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、ご推薦賜りました座長の先生に深く感謝申し上げます。

太田いそ研究奨励賞

日々の食事ケアに関わる中でみえてきたもの

社会福祉法人聖徳園 ひらかた聖徳園 竹中 美佐子

この度は、第18回大阪府栄養士会研究発表会において「太田いそ研究奨励賞」を受賞させていただき誠にありがとうございました。

私たちは「日々の食事ケアに関わる中でみえてきたもの」を研究テーマとし、言語聴覚士・管理栄養士が日々の食事ケアへの関わりを振り返り、現状把握・今後の課題について検討したものを発表させていただきました。

最近では、咀嚼と認知症の関係や、積極的な経口摂取によるADL・QOL向上等の研究結果が多数報告されています。当施設においても食事形態決定には十分なアセスメントを行い、食事形態の維持・アップを目標に、今以上口腔機能の低下が防げるようなアプローチを行っております。

本研究を通して、加齢による認知症の進行・ADL低下等を受け入れつつ、その入所者のレベルに合わせて、適切なタイミングで形態変更を行うことが大切であると感じました。今後は他職種との連携をさらに深め、入所者様に最期

まで口から食べることへの支援に努め、食事に対するレベル低下がみられても、ご本人様の食べたいものを食べていただけるよう工夫し、食事に対する楽しみが継続できるような関わりを行っていきたいと思っております。

最後になりましたが、ご推薦いただきました座長の先生をはじめ、関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。栄養士になってまだ経験が浅く、何においても勉強の日々ですが、今回奨励賞をいただき施設外から評価頂いたことは、大変嬉しく思います。日常業務だけでなく「研究」をすることで、入所者のより深い部分まで知ることができたり、他職種とも専門的な会話をする機会が増えたように感じます。そのため、日常でも相談・協力がしやすい環境が構築できているように思います。今後も自己研鑽に努め「栄養士がいてくれてよかった」と思ってもらえるような栄養士を目指して、日々精進して参ります。ありがとうございました。

太田いそ研究奨励賞

妊婦の体重増加と低体重児との関連

公益財団法人 聖バルナバ病院 黒川 浩美

このたびは、大変名誉な賞を受賞するに当たり、嬉しく思うと共に、関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

今回私達は当院における生期産の症例を解析し、妊娠前のBMI (Body Mass Index) 及び妊娠中の体重増加が、児の出生時体重に及ぼす影響について検討しました。

妊娠中の体重変化において、体重が増えすぎている時、また増え方が不足している時、栄養士が妊婦さんとかかわる、

“ベストなタイミングはいつなんだろう？”の疑問からこの研究は始まりました。

体重増加量は何に影響をあたえるか？妊婦の健康管理であるが、最も目に見えて現れるのは、児の体重です。

ということから、妊婦の体重変化と、児の出生体重から、栄養指導のタイミングを導き出そうと考えました。適正体重増加と、児の出生体重をコントロールするためには、妊娠各期にど

のような指標があれば、食事からのアプローチによる安全なお産に結び付くのだろう。これが分かったら、“すごいことかも！”と、話はふくらみました。

「栄養士が妊婦さんと関わるベストタイミングを明らかにしよう！」

プロジェクトを打ち出し、栄養管理室スタッフ全員で取り組みを始めました。栄養士会研究会での発表という目的を持ち、テンションをあげました。

私たちにとって、このような取り組みは初めてで、日常業務の隙間にデータ調べ、入力作業は大変で、何度も心が折れそうになりました。しかし、やり遂げて、しかも受賞できることになり、“すごいことかも！”に、一歩近づいたような気がします。

これからも、力を合わせて仲間とともに“すごいことかも！”への挑戦を続けたいと思います。